

「2018年度第2四半期決算」説明会

主な質疑応答

1. 第2四半期の営業利益は想定に対してどうだったのか？バッファは使ったのか？下期で上期に比べて注意して見ているものはあるか？
 - ・ 第2四半期の営業利益は、社内の計画に対しては上回っている状況である。とはいえ、外部環境の不透明感もあり、現時点では、これをもって通期の上方修正に結び付けるのは難しいと見て、通期の営業利益見通しは据え置いている。
 - ・ バッファはまだ一切手を付けていない。今年度は、収益力の強化がテーマであり、その収益改善の実現に対するバッファを積んでいる。各事業領域で構造改革として、リソースの再配分を進めているが、改善の効果は下半期に発現するものがあるので、現時点でバッファを取り崩すまでには至っていない。

2. 北米で進行中のプロセスプラント案件は、第2四半期でコストを計上したのか？
 - ・ 足元では追加工事が発生したり、アメリカの大きなハリケーンで工事が止まったこともあり、No.1トレインの引渡しは年明けまで工期が延びている。プロジェクトの管理状況はしっかり見える化できつつあり、工期が延びた分のコストは積んでいるが、当第2四半期でのインパクトはそれほど大きくない。

3. 航空・宇宙・防衛事業の収益について、新型エンジンのコストダウンも含めて、見通しは変わっていないか？スペアパーツの好調さも変わっていないか？
 - ・ 増産している新型エンジンのコストダウンは、目標に対して未達の状況。精密鋳造品と精密鍛造品がキーの素材として必要になるが、この素材ができる企業は世界でも数社しかない。ここに全てのエンジンメーカーからの注文が集まってくるので、そこがサプライチェーンでのボトルネックになっている。苦勞の度合いが広がっており、航空・宇宙・防衛事業の利益の底が今期で、来期から回復するというシナリオは、微妙なところに差し掛かっている。
 - ・ スペアパーツは、概ね航空需要の伸び率程度に対前期比で増えている。

4. キャッシュ・フローの今期の見通しは？
 - ・ キャッシュ・フローの今期の見通しは、期初から厳しいと見ていた。大型工事で昨年度計上した受注工事損失引当金のキャッシュアウトと、設備投資支出も多い。元々フリー・キャッシュ・フローはマイナスで見ていたが、実際には若干改善しているものの、通期ではやはり厳しい。来期以降も、資本の効率性を重視していきたい。

5. 計画より上振れたときは、株主還元として、増配は期待できるのか？
 - ・ 配当に関しては、まずは安定配当をきちんと実現するということを優先したうえで、検討していきたい。